

2015年度 メキシコ短期留学プログラム帰国報告書

国際農業開発学科3年浪川優希

私は、2015年の夏に、メキシコへ2週間行ってきました。今回はその報告をします。まず初めに、私がメキシコに行こうと思ったきっかけが2つあります。1つめは、高校時代から中南米に興味を持っていたからです。2つめは、私は開発学科で途上国について多くのことを学んできました。しかし、海外に出た経験がありませんでした。そこで、自分の目で途上国の現状を確かめたいと思いました。このような理由で短期留学を決意しました。

今回のメキシコへの短期留学で行ってきたことは主に3つあります。

1つめは、現地学生との交流です。具体的に行ったことは、大学案内、日本の文化紹介、自己紹介です。私は、2年の前期にスペイン語を履修して以来、スペイン語を一切勉強してきませんでした。そのため、学生との交流がスムーズにいかなく、悔しい思いをしました。しかし、2週間学生と交流を重ねると、日本でスペイン語を勉強するよりもはるかに早く身につきました。その後、私はFACEBOOKで現地の学生と繋がりながらスペイン語の勉強に励むことを決めました。このように、語学を学ぶきっかけを作れたことが良かったと思います。

2つめは、農村研修です。初日はメイズ畑、コーヒーとバナナの混作栽培を行っている組合、熱帯植物園を訪問しました。2日目はコーヒー生産者組合、蜂蜜農家、サボテン企業を訪問しました。3日目はピタヤ(ドラゴンフルーツ)農家とメスカル農家を訪問しました。4日目は、日本野菜を栽培している農家を訪問しました。私自身、2週間の短期留学で最も有意義な時間を過ごせたのは農村研修でした。特に、2日目で訪問したコーヒー生産者組合に関しては、本年度の収穫祭の研究の一環としても取り上げさせていただき、非常に勉強になりました。またそれだけではなく、日本では決して見ることが出来ないサボテン企業の規模に圧倒されたり、授業でしか見たことがない熱帯植物を見たり、伝統的な栽培を行っているメイズ畑を訪れ、貴重な研修が出来たと思いました。

3つめは、観光および施設見学です。訪問した場所はティオティワカン遺跡、国立人類学博物館、大統領府、Catedral(教会)、パラシオナショナル(博物館)、サンアントンニョー教会、チャピング自治大学の研究施設、CIMMYTです。このように、観光する場所が非常に多い理由はメキシコシティの構造にあります。メキシコシティは何層にも重なった構造になっています。そのため、地価を掘っていくにつれて遺産が発見されるような面白い構造になっており、世界で最も世界遺産が眠っている国として有名です。また、メキシコは、南部にはマヤ文明が、中部以北にはアステカ文明が栄えていたという過去を持つ。いずれの2つの文明は、スペイン人が到来するまでは世界最高水準の文明を誇っていたという見解もあります。このように、歴史ある街に触れてきました。

このように、短期留学では 2 週間という短期間で様々なことを行いました。今回の短期留学で学んだことはあくまでも勉強するきっかけを作ったに過ぎません。そのため、これからより一層勉強に励んでいきたいです。